



令和6年 第41回藤樹先生書道展 開催要項

藤樹先生の御聖徳を敬慕し、書の上達を祈念し第41回書道展を開催致します。一人でも多く個性ある力作を出品してください。

1. 主催 NPO法人心のふるさと書道会
2. 会期 令和6年10月8日(火)～10月13日(日)
3. 会場 高島市藤樹の里文化芸術会館
4. 応募資格 高校生以上の方
 1. 委嘱出品者 本展で無鑑査奨励賞受賞の方
 2. 無鑑査 市展特選又は本展で特選2回以上取得の方
 3. 一般 上記以外の方
5. 課題 要項に示した藤樹先生のことばの中から書くこと
6. 応募規定
 1. 規格 画仙紙半切(135cm×34.5cm)縦長に書くこと
 2. 体裁 仮巻軸にはって出品すること
7. 出品料 一点 1,000円

9月19日、20日に藤樹の里文化芸術会館までご持参ください。
ご遠方の方等は、下記口座までお振込ください。

振込先 ゆうちょ銀行振替口座
振替口座 00910-6-288660
口座名義 藤樹先生献書会
8. 出品点数 一人一点
9. 出品手続

出品票に、郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入し、

Aは仮巻軸の巻き終えた上に添付すること

Bは出品作品の下に貼りつけること



B票

氏名と町名または大字名

団体出品される方は出品目録を提出すること
10. 応募期間
 1. 令和6年9月19日(木)・9月20日(金) 2日間
午前10時より午後5時までに次の場所まで
 2. 搬入場所 高島市藤樹の里文化芸術会館
※送付される場合は次の住所へ9月20日(金)必着でお願いします。
送付先 〒520-1212 滋賀県高島市安曇川町西万木828-2
野上写真館3F NPO法人 心のふるさと書道会藤樹展担当あて
11. 審査 令和6年10月6日(日) 12時より
12. 入賞発表 審査の後、本人あて通知致します。
 1. 無鑑査奨励賞 5点
 2. 特選(県芸術祭奨励賞他) 20点
 3. 佳作 30点
13. 表彰式 令和6年10月13日(日)午後3時より藤樹の里文化芸術会館
14. 作品搬出 令和6年10月13日(日)午後4時より搬出
搬出に来られない方については着払いで返送します。
15. 後援 高島市・高島市教育委員会・レーク滋賀農業協同組合・NPO法人高島藤樹会・高島市美術協会・(公財)藤樹書院・朝日新聞大津総局・京都新聞・産経新聞社・読売新聞大津支局・毎日新聞大津支局・西嶺会・澄心会・(株)呉竹・攀桂堂・(株)墨運堂・創楽
16. 問合せ先 藤樹先生書道展 事務担当 駒井 090-9714-7677

第41回 藤樹先生書道展課題

注:明朝()内は読み下し
【 】内は解説

- (二 字) ① 清風 (せいふう)
【すがすがしい風。論語の「君子の徳は風なり」という意味を含んでいる。】
- ② 恭敬 (きょうけい)
【慎み深く、礼儀正しいさま。己れの徳をそだてる日常のおこない。】
- ③ 温習 (おんしゅう)
【学んだことをおさらいする。頭でなく身体いっばいで学習すること。】
- ④ 坐忘 (ざぼう)
【静坐、坐禅によって無我の境地となること。己れの執着を棄て去る修行。】
- (三 字) ① 畏天命 (天命をおそれる)
【人は天地のめぐみによって生まれた万物の霊。それを忘れないためのことば。】
- ② 尊徳性 (徳性をたつとぶ)
【人は天地とおなじ心を具わって生まれた。それを明德といい仏性ともいう。】
- ③ 博學之 (博くこれを学ぶ)
【己れのせまい知識に固執せず、いにしへの聖賢の教えをまなぶこと。】
- ④ 篤行之 (篤くこれを行う)
【学んだ教えに感動するものがあれば、それを日常の實際生活にうつすこと。】
- (四 字) ① 心之良知 (心のりょうち)
【すべての人の心には、ひとしく良知という霊宝が具わっている。】
- ② 聖凡一性 (せいぼんいっせい)
【聖人も凡人も、まったくおなじ天性 (=良知) をもっている。】
- ③ 梅花鶯語 (ばいかおうご)
【ウメの花もウグイスの声も春をあらわすことば。春は万物が生生化育する季節。】
- ④ 白日青天 (はくじつせいてん)
【輝く太陽と青い空。私欲という黒雲を取り除けば、白日青天の明德あり。】
- (五 字) ① 誠者聖人本 (誠は聖人のもと)
【誠実なところは聖人となる根本である。】
- ② 人皆可為堯 (人みなぎょうたるべし)
【人はすべて古代の聖天子・堯帝のようであるべきだと。】
- ③ 眞樂常惺惺 (眞樂つねにせいせい)
【まことの楽しみというのは、つねに心が聡明なものである。】
- ④ 萬境咸元亨 (ばんきょうことごとくげんこう)
【世界のすがたはすべて天の四徳 (元亨利貞) から成り立つ。】
- (六 字) ① 以春耕以夏耘 (春をもって耕し、夏をもってくさぎる)
【春は田畑をたがやし、夏には雑草をとりぞく。】
- ② 以秋收以冬藏 (秋をもって収め、冬をもっておさむ)
【秋には田畑の作物を収穫し、冬はその作物を貯蔵する。以上が農民のなりわい。】
- ③ 徳教加於百姓 (徳教は百姓にくわわる)
【愛敬の心にもとづく教えは、ひろく庶民にもゆきわたる。孝経のことば。】
- ④ 名者實之賓也 (名はじつのひんなり)
【名声というのは、その人の實際の徳にともなうべきものである。荘子の名言。】

- (七 字) ① **一忍七情皆中和** (ひとたび忍べば七情みな中和)
【すこしでも忍耐すれば、喜怒哀楽などの七情がすべてかたよらない。】
- ② **再忍五福皆駢臻** (ふたたび忍べば五福みな駢^{なら}びいたる)
【くりかえし忍耐すれば、長寿、富裕などの五福がわが身にあつまる。】
- ③ **忍到百忍満腔春** (忍んで百忍にいたれば満腔^{まんこう}の春)
【かぞえきれないほどの忍耐をしたなら、心全体が春のような気分になる。】
- ④ **熙熙宇宙都眞境** (熙熙^{きき}たる宇宙すべて眞境)
【となれば、この広大な宇宙がすべてありのままの状態 (=悟り) に見える。】
- (和 歌) ① **月かげのいたらぬ里はなけれども 詠^{よめ}る人の心にぞすむ。**
【月のひかりの及ばない人ざとはないけれど、美しいと思う人の心に月のひかりがある。】
- ② **世の願ひおもひのまゝに昧^{くら}からぬ 心まことの無價寶珠^{むげほうじゆ}なり。**
【己れに具わった明德という最高の宝珠を用いたならば、思いのままの人生となるの意。】
- ③ **梅^かが香も櫻の花も青柳の 色こそかわれ同じ春風。**
【梅の香りも桜の花も柳の木も何の差別なく、おなじ春の風をうけてりっぱに成長する。】
- (調和体) ① **孝を忘れて孝至る。**
【意識しているうちは孝行とはいえない。何の思いもはからいも離れた時こそ本物となる。】
- ② **吾^ご人は本^{ほん}楽しき者なり。**
【この世を苦悩に満ちた世界などというけれど、われわれ人間は本来、安楽で聡明なのである。】
- ③ **まづ父母の恩徳を觀念^{むび}すべし。**
【生まれてこのかた父母からうけた無量の恩を、夢寐にも忘れないようにすることである。】
- ※課題については、組み合わせることもできます。読み下しを調和体等で作品にすることもできます。

(撰・釈文 中江 彰)

キリトリセン

出品票①は仮巻の巻き終えた上に添付し、②票は出品作品の下に貼りつけること。

① 令和6年 第41回 藤樹先生書道展			団体番号	資格(○印で かこむ)
所属名又は 団体名	代表者			
フリガナ				1. 委 嘱
氏 名				2. 無鑑査
住 所				3. 一 般
				〒 電話番号

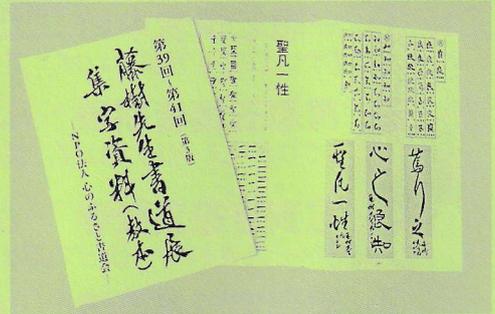
キリトリセン

② 令和6年 第41回 藤樹先生書道展	
氏 名	
住 所	

(市町村名をご記入下さい。)

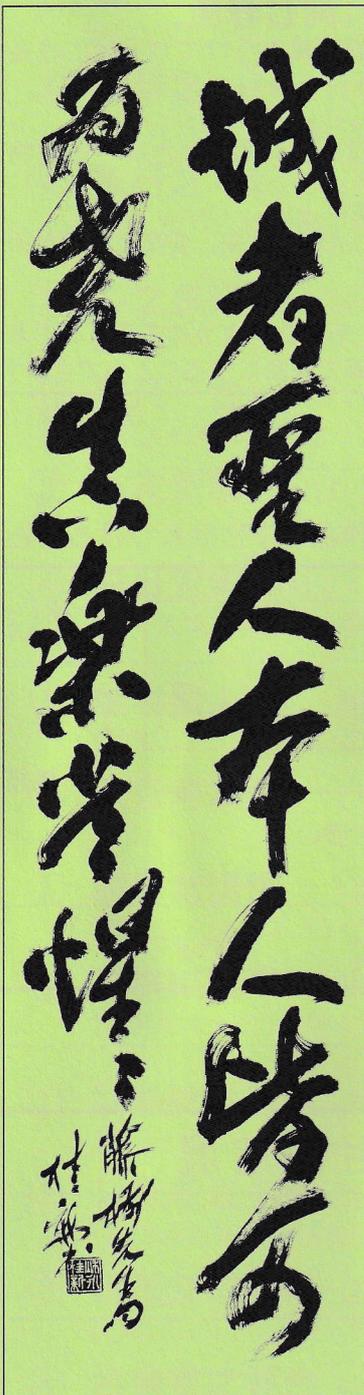
講演会のお知らせ（予告）

演題 「藤樹先生の教え」（仮）
 講師 中江 彰 先生
 元近江聖人中江藤樹記念館館長
 国際中江藤樹思想学会理事長
 日時 令和6年10月6日（日）16:00～
 場所 藤樹の里文化芸術会館
 参加費 無料



NPO法人心のふるさと書道会では作品制作のための教本を作成しています。お求め等詳細は 事務担当 駒井までご連絡ください。

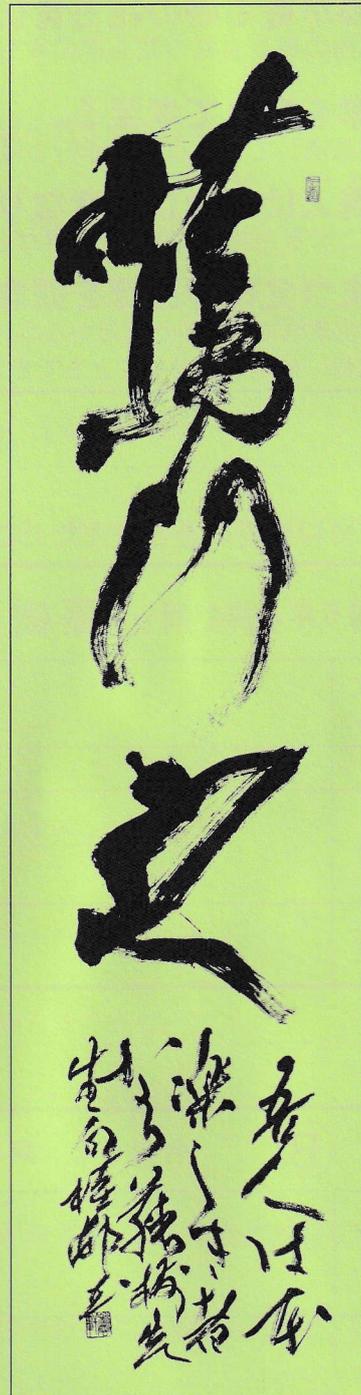
＜参考作品＞



秋永 桂新書

「誠者聖人本」・「人皆可為堯」・「眞樂常惺惺」

誠実なところは聖人となる根本である。人はすべて古代の聖天子・堯帝のようであるべきだと。まことの楽しみというのは、つねに心が聡明なものである。



西川 桂郵書

「篤行之」・「吾人は本樂しき者なり」

学んだ教えに感動するものがあれば、それを日常の実際生活にうつすこと。この世を苦悩に満ちた世界などというけれど、われわれ人間は本来、安樂で聡明なのである。